



尾道市・今治市 姉妹都市提携50周年記念

▲大島にある亀老山展望公園からの眺望。来島海峡大橋を見下ろす絶景です。

架橋から始まった交流

瀬戸内海を挟んだ尾道市と今治市は、架橋構想により大橋の架橋基点都市として相互の親密度が高まり、昭和43年7月15日に姉妹都市盟約が締結されました。平成11年に開通した瀬戸内しまなみ海道でつながって以降、文化やスポーツなどで交流を深めています。

平成28年には尾道市と今治市の両市で申請した「日本最大の海賊」の本拠地：芸予諸島ーよみがえる村上海賊“Murakami KAIZOKU”の記憶ー」が日本遺産に認定され、両市の絆が一層深まりました。

50周年を記念し、さまざまな催しを開催します。
詳しくは、広報おのみち6月号折込をご覧ください。



◀野球、サッカー、ミニバスケットボールの種目で、少年スポーツ交歓大会を行っています。両市の小中学生がスポーツを通して交流を行っています。



◀今年の尾道みなと祭にも、今治市長をはじめとする皆さんにお越しいただき、郷土芸能の継ぎ獅子や今治太鼓の披露がありました。



◀今年10月には国際サイクリング大会が開催されます。

今治市へ行ってみよう



大山祇神社
(国宝・国重文・国天然記念物)
日本総鎮守と呼ばれ、全国に1万社あまりの分社を持つ神社で、境内中央には樹齢2600年といわれる御神木があります。村上海賊が氏神として崇め、武運や海上交通の安全を祈ったとされています。



鈍川温泉
「えひめ自然100選」に選ばれた清流、鈍川渓谷に囲まれた鈍川温泉は四季折々の自然を楽しめる温泉です。「道後まさりのお湯が出る」と言われ、美人

の湯としても有名です。



能島城跡
能島村上氏が居城とした代表的な海城の跡です。周囲は潮流が渦巻く最大の難所で、天然の要塞とも言える城でした。村上水軍博物館前を出発するクルージングでは、迫力ある潮の流れを体感できます。(撮影：添畑薫さん)

今治で楽しむ ご当地グルメ

今治焼き鳥
熱々の鉄板の上から大きな鉄のコテで肉を押さえ、ジュージューと豪快に焼くスタイルの焼き鳥



◀ **今治焼豚玉子飯**
米飯の上に薄く切った焼豚をのせ、さらに半熟の目玉焼きをのせてから焼豚のタレで味付けした丼物料理

インタビュー 尾道市長×今治市長



尾道市長
ひらたにゆうこう
平谷祐宏

今治市長
かんりょうじ
菅良二

姉妹都市50周年を迎えるにあたり感想をお願いします

菅 尾道市と今治市は、古く村上海賊の時代より深い関係があり、その後も四国と本州の鉄道連絡船の玄関口として結ばれていました。瀬戸内しまなみ海道開通後は、サイクリングや瀬戸内しまなみ海道スリーデーマーチなど、しまなみ海道を生かした取り組みを行っています。

尾道市とはより密接な距離で、今後も親密な関係を築いていきたいと思ひますし、もっともっと深い縁で結ばれるように交流を大切にしていきたいと思っています。

平谷 50年前といえば、両市とも船の玄関口として栄えていました。現在は瀬戸内しまなみ海道の架橋や、お互いの合併を経て、まさにお隣同士の姉妹都市となることができました。

隣り合う姉妹都市同士でサイクリングの取り組みをしているのは全国でも例がありません。50周年を良い機会に、両市のつながりが一層深まることを期待しています。

それぞれのまちの良さは

菅 両市とも魚が非常においしく食文化にも共通点があります。また、尾道市にはベル・カントホールや平山都夫美術館など、文化的な財産も有数です。

尾道市のスポーツと言えばラグビーですね。今治にないものの一つですが、尾道高等学校のラグビー部は本当に強い。

平谷 今治市の魅力は、大三島をはじめとする島々の風景ですね。大三島から大崎上島を望む奥行きのある眺望や亀老山からの夕日など、島それぞれに個性があり、日常とはかけ離れた美しい景色を堪能できます。また、鉄板で焼く今治焼き鳥など、独自の食文化も魅力的です。

どのような時に姉妹都市の良さについて感じますか

菅 両市で申請した日本遺産(村上海賊)の認定は、一丸とならなければ、なしえなかったことだと思います。東京オリンピックが行われる2020年に今治市で開催される日本遺産サミットに向け、尾道市と連携を密にしながら、しっかりと準備していきたいです。

平谷 姉妹都市だけで日本遺産に登録されているのは全国で村上海賊だけであり、両市長が先頭に立ち、自転車に乗って情報発信しているまちも、他に例はないと思います。近年、サイクリングロードとしての「せとうち」、「しまなみ」という言葉が、海外でも認知されてきており、姉妹都市として、共に魅力を発信できることを頼もしく感じています。

祭りへの参加やスポーツ交流について

平谷 小・中学校のスポーツ交流、尾道みなと祭と今治市民のまつり「おんまく」の相互参加など、交流の取り組みが続けられています。これからも継続することで、両市民の交流が広がることを期待しています。

菅 そうですね。両市の祭りを通じた文化交流とともに、若いも若きも一緒にスポーツを楽しめるような交流を続け、お互いが切磋琢磨することによって、レベルも上がりますし、今後も続けていきたいですね。

今後、交流をどのように展開していきたいですか

平谷 しまなみ海道の開通により、両市を行き来する手段は従来の船から車へと変化しましたが、同時にサイクリングへの取り組みも生まれました。自転車に乗って橋を渡り、船に乗って帰ってくる。そういった新しい交通手段により、かつての船の往来もよみがえれば、両市をより楽しんでもらえるのではと感じています。

菅 お互いの持っている特色などを存分に理解・確認し合いながら、それぞれの魅力を体験・体感し、全国にアピールできる取り組みができたらいいなと思います。尾道市と気持ちを共有しながら、連携プレーで両市の魅力の発展に取り組んでいきたいですね。

平谷 尾道では、まちをステージに、前を向いて未来のために努力している人が多くいて、今までとは違う価値観も生まれてきています。

今治市にも、岡田武史さんや伊東豊雄さんをはじめ、新たな価値の集まり、新しい動きがあります。

そういった人たちがつながることで、新しい価値観を生み出し、未来に向かって歩んでいけるような交流を展開していきたいと期待しています。